

平成 25 年 5 月 24 日

各 位

西日本シティ銀行
NCB リサーチ&コンサルティング

消費者動向調査 No.112 「夏のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行(頭取 久保田 勇夫)は、消費者動向調査を定期的実施しております。
今般、当行の連結子会社である NCB リサーチ&コンサルティング調査部と共同で「夏のボーナス使いみち調査」を実施し、調査結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

記

. 「夏のボーナス使いみち調査」

調査結果要約

調査時期：平成 25 年 4 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 475 人、回答率 95.0%)

- U 今年の夏のボーナス支給予想、前年夏と比較して「多くなる」は 7.2 ポイント増加。
前年夏よりも、ボーナスが「多くなる」は 7.2 ポイント増加し 16.7%。「少なくなる」は 8.7 ポイント減少し 15.6%。
(調査結果本文 2P)
- U 夏のボーナスの使いみち予定、1 位は「貯蓄」で 62.1%。2 位は「旅行・レジャー」で 39.6%。
夏のボーナス支出予定 1 位の「貯蓄」は 62.1%で、前年夏の 57.0%より 5.1 ポイント増加した。2 位の「旅行・レジャー」は 1.6 ポイント減少して 39.6%。
(調査結果本文 3P)
- U ボーナスを貯蓄する目的、1 位は「将来の生活費補てんのため」で 42.7%。2 位は「将来の教育費のため」で 38.9%。
引続き将来への備えが上位を占めたが、「その他」との回答も 7.8 ポイント増加した。
(調査結果本文 4P)
- U 夏のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が 49.7%で 1 位。
円安の進行や株高を受けて、収益性にも目が向くようになった。
(調査結果本文 5P)
- U 関心がある金融商品、1 位は「預貯金」で前年の冬より 0.3 ポイント増加し 79.4%。
「預貯金」が過去最高と更新したが、リスク資産に対する関心が高まってきている。
(調査結果本文 6P)
- U 夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は 2 千円ダウン。妻は 4 千円アップ。
ボーナスが「多くなる」と予想する割合が増加したのを反映し、妻が「自由に使える金額」は増加したが、夫が「自由に使える金額」は減少した。
(調査結果本文 7P)

調査結果本文は[こちら](#)

この調査に関するお問い合わせ先は
西日本シティ銀行 広報文化部 原田 TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051